

仁淀川水力地點表

順位	河川	番地 地點	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	亘水 長路	面流 積域	能發 率電	馬年 平均 力數	等級
一、二、三	仁淀川	四	高知縣高岡郡別府村 別枝 道樂	同郡別府村 森村	湧水 二七四 低水 五四四 平水 八六六	一二四	三、七七一 七、四八八 一、九二〇	二、一〇〇	四三、五三	一〇〇・〇 九四・三 八二・九	三、七七一 七〇・六一 九八・八二	甲
一、二、三	同	五	高知縣高岡郡別府村 森村	同郡別府村 加枝村	湧水 三〇四 低水 六〇四 平水 九六二	一二六	四、二五二 九、八四六 一三、四五五	三、二〇〇	四六、三三	一〇〇・〇 九四・三 八二・九	四、二五二 九二、八五 一一、一五	乙
一、二、三	同	六	高知縣吾川郡横島村 筏津	同郡明治村 宮谷村	湧水 三九八 低水 七九〇 平水 一、二六〇	六八	三、〇〇四 五、九六三 九、五一〇	二、二〇〇	六三、二八	一〇〇・〇 九四・三 八二・九	三、〇〇四 五、六二四 七、八八四	乙

ニ依ル

以上二地點ニハ用惡水、流木ノ關係ナキモ漁業盛ナルヲ以テ之ニ對シ適當ナル設備ヲ要ス而シテ地點附近ハ河岸急峻ニシテ水路築造ニ困難ナルモ其ノ沿岸ニハ縣道開通

スルヲ以テ諸種ノ運搬ニハ多大ノ便アリ

順位一、二、三 横島村附近ニ於ケル河川迂廻部ヲ利用スルモノニシテ左岸ニ取入口ヲ設ケ半ハ隧道ニ依リ半ハ開渠ニ依ル。本地點ニハ用水、惡水ノ關係ナキモ舟筏漁業ニ對シ適當ナル設備ヲ講スヘキモノトス

第二十八章 渡川水系

第一節 概説

地形 本流域ハ四國ノ西南部ニ突出セル蹠蛇半島ノ大部ニ跨リ幅廣ク圓形ヲナシ北ハ豫土ノ國界ヨリ南ハ土佐灣ニ連リ面積一四三方里ヲ占ム。本流域ノ東部ヲ限レルハ土佐灣ノ西岸山脈ニシテ西部ヲ劃セルハ豊後水道ノ東岸山脈タリ而シテ其ノ中間ニハ二條ノ山脈アリテ之ヲ三

澁ノ流域ニ分ツ其ノ最高地ハ雨包山(一、三一二米)ヨリ高研山(一、〇五八米)ニ至ル連嶺ト不入山(一、三三六米)ヨリ鈴ヶ森(二、〇五四米)ニ至ル連山トノ中間及其ノ東方ニ隣接シテ火打山脈トノ中間ヲ占ムル地域ニシテ前者ハ高知縣高岡郡ノ西北部、幡多郡ノ北部ヲ抱キテ支流禰原川流域(二九六九方里)ヲナシ後者ハ高岡郡ノ南部、幡多郡ノ東部ヲ抱キテ支流仁井田川流域(三〇二二方里)ヲナス共ニ本水系ノ主要ナル水源地ニシテ其ノ地勢ハ仁井田川流域ニ於テ多少緩ナレトモ禰原川流域ハ全部急峻ナル山地ヲ以テ充サレ平地ハ極メテ少シ次ハ禰原川流域ノ西ニアリテ西方分水嶺トノ中間ニ愛媛縣北宇和郡ノ大部ト高知縣幡多郡ノ一部ヲ占ムルモノニシテ之ヲ吉野川流域(二四方里)トナス此ノ流域ハ四圍ノ山勢極メテ緩ニシテ平地多ク水力利用ノ價值少キノ地ナリ。禰原川及仁井田川ハ本流域ノ中央東部ニ合流シテ澁川ヲ形成シ西方ニ流下ス此ノ附近ハ北ニ長山(九四〇米)研御前山(九四七米)等ノ高峰連ナリ南ニ堂ヶ森(八五七米)鷹ノ巢(六五五米)等ノ連峰聳ユ山嶽群起ノ地ヲナス吉野川ヲ合セ東南ニ流下スルニ至リ兩岸ノ山勢漸ク緩漫トナルモ尙平地ノ見ルヘキモノナシ

地質 禰原川流域ノ北方分水嶺ニハ多少ノ古生層ヲ見

ハ概ネ二、〇〇〇耗ヲ下ラス支流ハ仁井田川流域ニ於テ最多ク窪川附近ニテ三、五〇〇耗、大野見村附近ニテ三、八〇〇耗ヲ算ス、禰原川ハ下流部ニ於テ三、〇〇〇耗内外ニシテ上流ニ至ルニ從ヒ減少シ禰原村ニ於テハ二、九〇〇耗内外ナリ其ノ最寡キハ吉野川ニシテ一、六〇〇耗餘ニ過キス。氣温ハ南部沿海地方ニテ平均一六度内外ヲ保チ山間部ニ至リ漸次ニ低下スルヲ普通トシ仁井田川及禰原川流域ニ於テ一四度内外吉野川流域ニ於テ一五度内外ヲ示ス

第二節 禰原川

一、河川狀況 水源ヲ地芳峠附近ニ發シテ禰原村地方ヲ西ニ流レ後彎曲シテ南ニ向ヒ大字禰原ニテ雨包山ニ發源

禰原川 流量 表

初瀬測水所 大正八年流量 大正九年一月一日ヨリ同月十九日迄ノ資料ヲ充當シテ査定セルモノナリ
江師測水所 大正八年流量 大正九年一月一日ヨリ同月三十一日迄ノ資料ヲ充當シテ査定セルモノナリ

順位	舊順位	河川	測水所	面積	流 量				流 域 一 方 里 當 流 量			
					年次	最大	平水	低水	最大	平水	低水	最小
101		吉野 禰原川	高知縣高岡郡禰原村 初瀬	1,050	大正八年 3,740	1,76	1,49	73	3,56	1,68	1,42	6,9
					大正九年 4,860	1,55	1,56	63	4,55	1,54	1,50	6,4
					大正十年 7,050	1,33	1,33	63	6,71	1,84	1,26	6,5
					大正十一年 8,490	1,46	1,46	73	8,08	1,89	1,29	7,1
					平均							

ルモ他ハ概ネ中世紀白堊系ニ屬ス
林野狀態 本水系ノ主要水源地タル仁井田川及禰原川流域内ニ於ケル地目分布ハ大要左表ノ如シ官林ハ仁井田川上流及仁井田川、禰原川ノ分水嶺ナル鈴ヶ森以南一帶ノ

地目面積表

河川名	地目	山 林				計	合計
		耕地	原野	針葉樹林	闊葉樹林		
禰原川 (初瀬測水所以上)	耕地	2,100	4,000	0	0	6,100	100,000
	原野	2,000	2,500	0	0	4,500	100,000
同	針葉樹林	2,200	8,600	1,100	3,300	15,200	100,000
	闊葉樹林	2,200	8,600	1,100	3,300	15,200	100,000
仁井田川 (地目取入口以上)	耕地	2,200	4,000	0	0	6,200	100,000
	原野	2,200	4,000	0	0	6,200	100,000
同	針葉樹林	2,200	8,600	1,100	3,300	15,200	100,000
	闊葉樹林	2,200	8,600	1,100	3,300	15,200	100,000
澁川 (地目取入口以上)	耕地	2,200	4,000	0	0	6,200	100,000
	原野	2,200	4,000	0	0	6,200	100,000
同	針葉樹林	2,200	8,600	1,100	3,300	15,200	100,000
	闊葉樹林	2,200	8,600	1,100	3,300	15,200	100,000

山地ニ最多ク其ノ他禰原川支流北川ノ上下流並北川合流點以下禰原川ノ兩岸山地ニ散在スルモノ之ニ次ク是等ノ官林ハ専ラ針葉混濁樹林ニ屬シ極メテ良林ヲナセルモ原野亦多クシテ全面積ノ過半ヲ占ム民有林中稀ニ良林ヲ見ルモ多クハ雜木疎林ニシテ概シテ不良ナリ。耕地ハ仁井田川ニ多ク主トシテ水田ナリ

氣象狀態 本流域ハ降水量概シテ多ク本川澁川ニ於テ

スル右支四万川ヲ合セ大字中平ニテ不入山ヲ水源トスル左支北川ト合シ尙南流シテ彎曲迂曲甚タ多ク遂ニ大正村ニ入り大字田野々ニ於テ仁井田川ト合ス。此ノ流路約一五里ナリ

禰原ヨリ上流ハ概シテ谷開ケ岸低ク緩ニシテ河床ニ砂礫多キモ四万川合流點以下ハ谷迫リ岸高ク且急峻ニシテ斷崖諸處ニ屹立シ河川ノ屈曲極メテ多ク河床砂礫ヲ有スルモ急湍ノ箇所ニハ岩盤ヲ露出ス影地ヲ過キ下道ニ至レハ流路ノ屈曲漸ク減シ大奈路附近ヨリ河幅ヲ增セトモ兩岸ノ山勢交々相迫リテ愈急ナリ流下勾配ハ四万川合流點、影地間一八〇分ノ一夫ヨリ下流田野々ニ至ル間ハ平均三一〇分ノ一ニシテ稍緩ナレトモ此ノ間屈曲多キヲ以テ之

順位	舊順位	河川	測水所	流域面積	流量				流域一方里當流量							
					年次	最大	平水	低水	最大	平水	低水	最大				
三〇二	七五	檜原川	高知縣幡多郡大正村江師	二九二〇	大正八年 三月 一六七〇〇	大正九年 三月 一八七五〇	大正十年 三月 一六三〇〇	大正十一年 三月 一六三〇〇	平均 三月 一五五〇〇	一六〇	一七三	一八〇	一九〇	二二五	六二	六二

ヲ利用シ得ヘシ。出水ニ際シテハ洪水水位比較的高キモ河床ノ變化ハ割合ニ小ナリ

本川最濁水期ハ初冬ノ頃ヲ普通トシ秋季モ亦稍濁水ニ近ク春季ヨリ初秋ニ互リテハ低水若ハ高水多ク最大高水ノ起ルハ例年七八月ノ頃ナリ

二、水利及治水 本川上流部ハ其ノ沿岸比較的開ケ灌漑用水各所ニ存在スルモ四万川合流點ヨリ下流ニアリテハ用水ノ引用全クナシ。流水ハ四万川合流點ヨリ下流ニ於

渡川水方地點表

順位	河川	番地點	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	巨水長路	流域面積	能發電率	年平均馬力數	等級
一一六	檜原川	一	高知縣高岡郡檜原村初瀬川井	同郡檜原村初瀬佐渡村	濁水 七四 低水 一四六 平水 一九八	一三三	一〇九五 一一五五 二、九二四	一七二〇	一〇七七	一〇〇〇 九四六 八四三	一〇九五 一〇三九 二、四六五	甲

テ隨時ニ行ハレ年約一四、五〇〇才ヲ算ス其ノ多クハ管流ニシテ流量多キ時期ニ於テノミ大奈路ヨリ筏幅一間長サ八間位ニ組ミ渡川ニ流下ス而シテ沿川道路未タ開ケス森林狀態良好ニシテ有用材ニ富メルヲ以テ漸次之カ伐採セラルルモノ多キヲ加ヘ從ツテ流水ヲ利用シテ運搬スルモノ少カラサルナリ。其ノ他惡水漁業、舟楫等ノ關係ナシ

三、水力地點 選定水力地點數三、其ノ馬力數ハ左表ノ通ニシテ許可水力地點ナシ

順位	河川	番地點	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	巨水長路	流域面積	能發電率	年平均馬力數	等級
一一七	同	二	高知縣高岡郡檜原村中平五社岡	同郡檜原村日ノ地	濁水 八四 低水 一六五 平水 二二五	一八〇	三、二九七 四、四九六	一六六〇	二一八八	九四六 八四三 三七九〇	三、一九 三、七九〇	甲
一一八	同	三	高知縣幡多郡大正村下道久ノ川	同郡北西上山村四手ノ川口	濁水 一九七 低水 三〇四 平水 四六二	二三八	八、〇三一 一一、二〇五	三、一〇	二四、四	一〇〇〇 九六一 八五三	四、六八九 七、七七八 一〇、七九八	甲

水力地點ノ説明

順位一、一二六 右岸ニ取入口ヲ設ケ河川ノ屈曲ヲ利用ス隧道延長約九五〇間開渠延長約三三〇間ナリ

順位一、一二七 同シク河川ノ屈曲ヲ利用スルモノニシテ右岸ニ取入レ隧道延長約一、二三〇間開渠延長約五五〇間トス

順位一、一二八 檜原川ノ右岸ニ取入口ヲ設ケ河川屈曲ヲ利用シ半ハ隧道ニ依リ半ハ開渠ニ依リテ導キ渡川ニ放流スルモノトス

以上各地點ニハ用惡水ノ關係ナキモ流水ニ對シテハ適當ナル設備ヲ講スヘキモノトス

第三節 仁井田川

一、河川狀況 水源ヲ不入山ニ發シテ南ニ向ヒ荒瀬附近

ニテ右岸ヨリ鳥ノ川ヲ容レ吉野ヨリ西ニ轉シテ屈曲甚タ多ク野老野ヨリ又南ニ向ヒ數多ノ細流ヲ合シテ後東川角ニ至リテ平串川ヲ合セ窪川ニ至リテ東方ヨリ吉見川ヲ合ス之ヨリ川ハ概シテ西方ニ向ヒ幡多郡ニ入り兩岸ヨリ二、三ノ小流ヲ合シテ田野々ニ至リ檜原川ニ合ス。此ノ流路約二〇里ナリ

本川ノ流過スル所ハ多ク中生層ノ山地ニシテ河川ハ一般ニ彎曲ニ富ムト雖モ兩岸ハ緩ニシテ谷開ケ岸低ク諸所ニ平野アリテ大體ニ於テ緩流ナリ而シテ窪川村川口ヨリ大正村北ノ川ニ至ル附近ハ流下勾配平均三〇〇分ノ一ヲ有シ屈曲甚シキヲ以テ稍利用シ得ル價値アリト雖モ夫ヨリ下流復緩ナリ從ツテ本川ニ於ケル利用範圍ハ至テ狹シトスルモ窪川村大向又ハ家地川附近ハ幡多郡佐賀村ヲ流ルル伊與木川流域ニ接近シ而モ其ノ水面ノ高低差ハ約三

〇〇尺ニ達スルヲ以テ有效ニ之ヲ利用スルコトヲ得而シ 河床ニ大ナル變化ヲ生スルコトアリ流量變化ノ概況ハ次
ヲ本川ニ於ケル洪水位ハ比較的高ク出水ニ際シテハ往々 ノ如ク略橋原川ト同様ナリ

仁井田川流量表

關係灌溉用水一箇所アリ其ノ期間ハ三月一日ヨリ十月三十一日迄ニシテ引用水量ハ八個ナリ

順位	舊順位	河川	測水所	流域面積	流量				流域一方里當流量											
					年次	最大	平水	低水	湯水	最小	最大	平水	低水	湯水	最小					
三〇三	七四	仁井田川	高知縣高岡郡窪川村窪川	六〇〇	大正八年 二七,七〇〇	大正九年 一六,〇〇〇	大正十年 一八,〇〇〇	大正十一年 一七,〇〇〇	平均 一七,〇〇〇	三三	一七	一五	一五	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六

二、水利及治水 窪川村ヨリ上流ニ於テハ沿川概ネ耕地

開クルヲ以テ之ニ要スル灌溉用水多量ニシテ下流部ノ涸

渴ヲ來スコト多シ流木ハ下流部ニ於テ多少行ハルモ官

林ノ伐材ハ概ネ軌道ニ依リ仁井田又ハ吉野ニ出シ之ヨリ

縣道ヲ車馬ニテ久禮或ハ須崎ニ搬出スルヲ普通トス其ノ
他惡水、漁業、舟楫等ノ關係ナシ

三、水力地點 選定水力地點數一(比較線二)其ノ馬力數ハ

左表ノ如シ。許可水力地點ナシ

仁井田川水力地點表

落差ニ*ヲ附セルハ概定數ナリ

順位	河川	番地點	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	巨水長踏	面流域	能發電	馬力數	等級
一、三二	仁井田川	四	高知縣高岡郡窪川村窪川	幡多郡佐賀村	湯水 一、二二 低水 二〇二 平水 三七八	二九五	三、九九五 六、六一四 一、三七八	一、四六〇	二、四九	一〇〇・〇 九四・五 八〇・五	三、九九五 六、二五〇 九、九六四	甲

一、三三	同	五	高知縣高岡郡窪川村窪川	幡多郡大正村北ノ川	湯水 一、二九 低水 二二三 平水 三九八	* 八〇	一、一四六 一、八九一 三、五三四	一、六六〇	三、三六	一〇〇・〇 九四・五 八〇・五	一、一四六 一、七九七 二、八四五	乙
------	---	---	-------------	-----------	-----------------------------	------	-------------------------	-------	------	-----------------------	-------------------------	---

水力地點ノ説明

順位一、三一 仁井田川ノ左岸ニ取入レ伊與木川流域
ニ導キ同川ニ放流スルモノニシテ水路ハ開渠延長約二七
〇間、隧道延長約一、一九〇間トス

本地點ノ利用ニ依リ伊與木川ノ下流ニ多量ノ用水ヲ供
給シ得ヘキヲ以テ同川流域ニ於テ水田開拓ヲ行ヒ得ルノ
利アリト雖夫ニ伴ヒ伊與木川ノ下流ハ勿論上流ト雖之カ
影響ヲ及ホス範圍ニ互リテ河川ノ擴張工事ヲ行ハサルヘ
カラス用水關係ナク流木ハ少量ナルヲ以テ主トシテ陸運
ニ依ラシメ得ヘシ

順位一、三二 本地點ハ順位一、三一ノ比較線トナル
モノニシテ右岸ニ取入口ヲ設ケ河川ノ屈曲ヲ利用シテ水
路ヲ短縮シ隧道延長約一、三八〇間、開渠約三〇〇間ヲ築造
ス用水ナク流木ハ前地點ト同様ナリ

以上二地點トモ沿岸ニ車道開通セルヲ以テ諸種ノ運搬
容易ナリ且地形著シク急ナラサルヲ以テ工事ニ甚シキ困
難ナキモノト認ム

第四節 渡川

一、河川狀況 橋原川及仁井田川ハ幡多郡大正村大字田
野々ニ合流シテ渡川ヲ形成シ西上山村、十川村地方ヲ西方
ニ流下シ江川崎村大字江川ヨリ南ニ向ヒ川崎ニ於テ伊豫
ヨリ來ル一大支流吉野川ヲ合セ更ニ南流シテ目黒川、黒尊
川等ノ支流ヲ右岸ニ合セ次第ニ東南ニ轉シテ中村町ノ西
方ヲ流過シ左支後川ヲ合セテ下田ニ至リ海ニ注ク。此ノ
流路約二五里ナリ

本川ノ流路ハ全ク山嶽重疊ノ地ニシテ河川ハ屈曲極メ
テ多ク其ノ方向ヲ一定スル所ナシ就中大正村ヨリ江川崎
村ニ至ル間ハ屈曲最甚シク且下流中村町附近ニ於テ一方
稍平坦ナル土地ニ接スルモノヲ除キテハ概ネ兩岸急峻ナ
ル山脚ニ接ス兩岸ハ岩盤ノ露出セル所多キモ斷崖少ク河
床ハ諸所ニ岩盤ヲ露出スルモ砂利大部分ヲ占ム勾配概シ
テ緩ニシテ本川中最急流部ニ屬スル田野々、下山間ニ於テ
平均五〇〇分ノ一内外ニ過キス然レトモ此ノ間屈曲最多

キヲ以テ之ヲ利用スルコトヲ得。本川ニハ測水所ヲ設定 流行アリ就中川崎ヨリ下流ニハ大型ノ舟往來シ貨物ノ運セサリシヲ以テ流量ノ變化ノ狀況ハ之ヲ詳ニスル能ハス 輸ニ從事スルモノ多シ。漁業ハ鮎ヲ主トシ其ノ産額少カト雖仁井田川及橋原川測水所ニ於ケル調査ノ結果ヲ參照 ラス。流木ハ四季ヲ通シテ盛ニ行ハル冬季管流ヲナスモスヘキモノトス ノアルモ多クハ筏ニ編成シ下田港ニ流下スルモノニシテ

二、水利及治水 田野々ヨリ下田港ニ至ル間ニハ荷舟ノ 其ノ數量ヲ示セハ左ノ如シ

區 間	流 材				管筏 流別	主ナル材種	季 節
	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年			
至自 下大 田正 村村	五、〇〇〇	一、三三〇	二、五〇〇	一、〇二五	管筏	樺、樺、檜、松	冬
至自 下江 川崎 村村	一、七〇〇	一、〇四〇	八六、二八〇	一、〇七六	管筏	松	四季
至自 下津 田大 村村	一、二六、〇〇〇	三、二一、〇〇〇	四九、〇〇〇	一、一七、〇〇〇	筏	杉、松	春、冬
	八七、六〇〇	二五、〇〇〇	三二、〇〇〇	四〇、〇〇〇	同		

三、水力地點 選定水力地點數一(比較線一)其ノ馬力數ハ 左表ノ通りニシテ許可水力地點ナシ

渡川水力地點表 水量ニ*チ附セルハ概定數ナリ

順位	河 川	番地點	取 入 口	放 水 口	水 量	落 差	馬力數	瓦水長路	面流域	能發電率	年平均馬力數	等級
一二二九	渡 川	六	高知縣幡多郡西上山村 大井川 大井川	同 郡 江川崎村 中家 中家	湯水* 四四六 低水* 七一〇 平水* 二二〇	一二五	六一八八 九八五一 一六七八九	四、〇〇〇	六四五九	一〇〇〇 九五三 八二九	六一八八 九三六八 二、三九一八	乙
一三三〇	同	七	高知縣幡多郡十川村 川口今成	同 郡 十川村 川口	湯水* 四七九 低水* 七六三 平水* 一三〇〇	四〇	二、二二七 三、三八八 五、七七二	九〇〇	六九六六	一〇〇〇 九三三 八二九	二、二二七 三、三三九 四、七九五	甲

水力地點ノ説明

順位一、一二九 渡川ノ屈曲ヲ利用スルモノニシテ其ノ左岸ニ取入レ隧道延長約二、二一〇間、開渠延長約一、八九〇間トス

順位一、一三〇 本地點ハ順位一、一二九ノ比較線ニ相當スルモノニシテ右岸ニ取入レ河川屈曲ヲ利用シ開渠約二四〇間、隧道約六六〇間ヲ開鑿ス

以上ノ二地點ニハ用悪水ノ關係ナキモ流木、漁業、舟楫等ニ對シ適當ナル方法ヲ講スルノ要アリ然レトモ地點附近ハ兩岸ノ地盤良好ニシテ著シク急ナラス且沿岸ニハ平坦ナル道路アリ

第二十九章 肱川水系

第一節 概説

地形 本流域ハ伊豫ノ西南部ニ位シ上浮穴、喜多、東宇和、伊豫ノ四郡ニ跨リ其ノ形正方形ニ近ク面積七〇三方里ヲ占ム。四面山嶽ヲ以テ圍繞セラレ東ハ石鎚山脈ノ支脈ニシテ最高ク海拔一、一〇〇米乃至一、四〇〇米ノ高峰相連ナリテ仁淀渡ノ二川ト界シ南ハ其ノ支脈東宇和北宇和ノ郡

地目面積表

河川名	地 目		山林地		合計
	耕地	原野	針葉樹林	闊葉樹林	
肱川 (宇和川村不詳區域以上)	面積(方里)	三三	六六	一四	一七六
	同 百分率	三三	六六	一四	一〇〇

概シテ不良ナリ。耕地ハ上流臺地ニ多ク盆地ニ於テハ河川ノ兩岸又ハ山腹ニ散在セリ

氣象狀態 雨量ハ流域ノ東部、南部地方ニ多ク二、〇〇〇耗内外ニシテ北部地方ニ遞減シ大洲盆地ニ於テ一、五〇〇耗内外ナリ。氣温ハ山間最冷地ニ於テ平均一五度内外トス